

令和7年度 地域と学校の連携・協働に係る研修会

趣 旨：地域と学校が連携・協働した活動の推進を図るため、地域学校協働活動を中心とした活動の在り方について研修する。

今年度は、先進的な取組を行っている学校・地域の事例発表、CS マイスターによる講演をとおして、連携の在り方や地域の力を活用した取組について学ぶ機会とした。

日 時：令和7年11月27日（木） 13:30～16:30

場 所：山梨市民会館

参加者：学校教職員、行政職員、学校教育関係者（学校運営協議会委員、地域コーディネーター、学校支援ボランティア等）、保護者、地域住民 等 約200名

内 容

1 事例発表 「富沢小学校の地域との連携・協働」

南部町立富沢小学校 校長 山之内 進 先生

南部町教育支援センター 田村 勝彦 氏

富沢小学校は、令和2年度の統合により学区が広域化したことを受け、より地域に密着した学校運営を実施するため、保護者や地域住民が参画する新たな学校づくりを目指し、学校運営協議会を設置している。

また、南部町教育支援センターが開設され、現在5名の職員が不登校対応をはじめとする学校教育全体の支援や、学校と地域の連携を担っている。コーディネーターは、教育活動に地域の力を生かすため、ボランティアの募集・連絡・調整を行い、学校と地域をつなぐ役割を果たしている。各校のニーズに応じて、授業の補助、登下校の見守り、草刈り、植木の剪定、陸上記録会の補助など、多岐にわたる取組が行われている。

その結果、退職教員や職人、農家、ボランティアなど、多様な人材の経験や知識といった地域の教育力が学校教育に活用されるようになった。さらに、地域において「学校は自分たちのもの」という意識が高まり、学校と地域との信頼関係の構築につながるなどの成果が見られている。



2 講演 「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動との一体的な推進

～学校と地域の連携・協働を本物にするために～」

三鷹市統括スクール・コミュニティ推進員

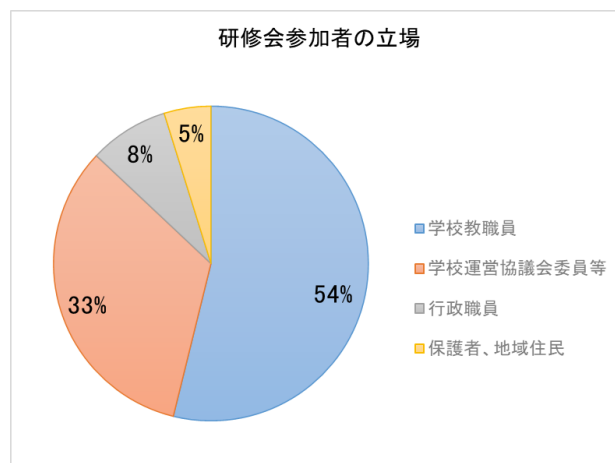
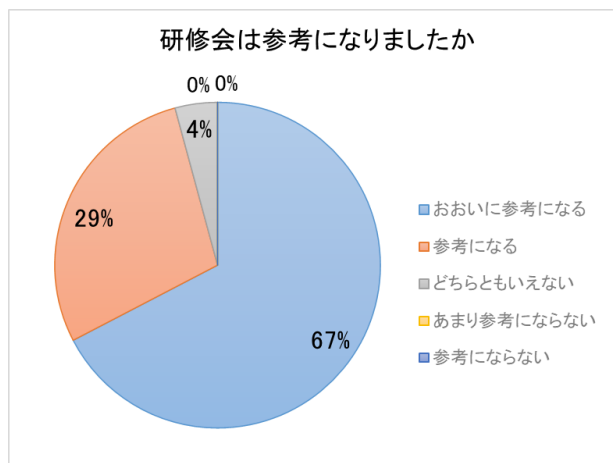
文部科学省 CS マイスター 四柳 千夏子 氏

四柳氏は、地域子どもクラブ「あそびバナナ」の立ち上げやPTA活動やコミュニティ・スクールの推進など、現場に根ざした取組を数多く展開してきた。現在は、文部科学省のCSマイスターとして全国各地で講演や助言活動を行い、コミュニティ・スクールの推進や地域の教育力向上に向けた支援を継続している。

連携・協働とは、情報共有をしながら互いに協力し、対等な立場でそれぞれの役割を生かして共に取り組むことである。そのため、地域は「支援する側」ではなく、学校と同じ立場で子どもを育てるパートナーであることが求められている。

講演では、保護者や学校などそれぞれの立場から御自身の取組や大切なポイントが示され、「何のためにやるのか」を常に問い続けることにより、新たに始めるだけでなく、「やめる」「変える」といった見直しも可能になることが示唆された。また、学校運営協議会における「承認」については、「OK」ではなく「Let's」へと意識を転換し、ともに取り組む姿勢が重要であることが、多くの参加者の印象に残った。

参加者からの感想等



- *〔講演〕学校運営協議会の在り方を学ぶことができた。参加者が会に「参加してよかった。」と思えるためには、皆に発言の機会があることや、安心して発言できる環境づくりが必要なことを痛感した。また、学校と地域が対等な立場であることの重要性も改めて感じた。
- *〔講演〕学校と地域がお互いに何を求めているのか知ることが大切だと感じた。年間3回の学校運営協議会では、伝わらないと思った。お互いが話せるようになってはじめて、子どもたちのことを共に考えられるのではないかと思った。
- *〔講演〕地域と学校は対等な立場であり、パートナーである。お互いに思いや考えを伝え合い、子供を地域と学校で育てていくという目標を共有することが大切である。実現が難しい活動においては熟議を重ね、時には無理と言うことも必要である。等のことが良く分かった。
- *〔講演〕とても分かりやすい内容で、実践してきたからこそ感じたことが伝わってきた。また、地域の方たちに今後関わっていただくために、学校側ができること、しなければならないことが分かった。熟議の必要性も今回の講演から理解でき、そのための準備の大切さもわかった。周りの人と対話をしながら、楽しく充実した時間を過ごすことができた。
- *〔事例発表〕学校教育目標をスタートに取り組みが展開されていることが素晴らしいと感じた。「N授業」等、地域の方々の支えがあって取り組まれているものが多く、地域の力を感じた。
- *〔事例発表〕学校と運営協議会が一方的なつながりにならずに、両者での対話の仕組みが整えられ、信頼関係が構築されていることに素晴らしさを感じた。また、支援センターをはじめ様々な機関とのつながりがある点も参考になった。
- *〔事例発表〕教育支援センター（地域学校協働本部）があり、コーディネーターが5名在籍しているとの事が素晴らしいと感じた。どの市町村でも南部町のような対応が取られ、地域コーディネーターが組織化され、コーディネーターが職として確立されるといいと思う。
- *〔事例発表〕地域との関係が密でいろいろなかわり方があることが参考になった。また、学校が現在行っている調整などを、支援センターやコーディネーターなど外部の機関で行われていることが素晴らしい取組だと感じた。

